

令和7年度ピア・サポートだより

令和8年3月発行 幼稚部（ピア・サポート担当）

今年度で19年目を迎えるピア・サポートの、第4回の様子をお伝えします。

これまで、本校保護者同士の繋がりを持つきっかけの場として、活動を行ってきましたが、今年度は「日々、視覚障害児・者と関わっている方々」と対象を広げて、開催テーマによって、地域の保護者、学校関係者、デイサービス等の関係者にも呼びかけて、活動を行いました。本校の職員からの講話や複数名で集まった座談会の形で実施されました。

今年度の開催テーマ

第1回目「視覚障害の当事者から聞こう!進路決定までの道のり」

第2回目「今さら聞けない!自立活動って何?」

第3回目「保護者同士でゆっくりお話会」

第4回目「就学に向けて育てたいかって?」

過去3回分の様子については支援部だよりをご覧ください。

■第4回目「就学に向けて育てたいかって?」(令和8年2月18日実施)

この会では、なんと10名(そのうち2名は可愛いお子さん♪)の方が参加してくださいました。参加して下さったみなさん、ありがとうございました。

「就学や進学に向けて、家庭でやっておくと良いこと」というテーマで、本校の教育支援担当:立津あゆみ先生に参加してもらっての開催でしたが、地域の保護者からの疑問に対して、本校の先輩保護者からも経験談を話していただき、子育て中の思いを温かい雰囲気で共有することができました。その時のあゆみ先生や先輩保護者の言葉が素敵でしたので、ご紹介します。

Q:「周りへの興味をどうしたら持てるようになるのか」「どんな刺激が子どもの成長に繋がるのか」【地域の保護者より】

A:【あゆみ先生より】自分からおもちゃなどに手を伸ばすことが難しいお子さんもいるが、定型発達のお子さんと同じように育てていくという視点を持って。視覚からの情報が入りにくい分、言葉に置き換えたり、物の触り方を教えたりして、情報を補い、経験を積み重ねることが大切。

A:【先輩保護者より】触る・匂いを嗅ぐ・歌うなど、こちらから仕掛けを作り、様々な経験を増やしていくことが大切。自分の子は芝生や砂など、最初は苦手でも、経験を重ねることで慣れ、楽しさを覚えて好きになっていった（体験談）。

A:【先輩保護者より】成長のスピードは人それぞれであり、その子の世界が広がっていく過程を大切にしたい。自分の子は小さい頃、たまたま座らせた砂利の感触に驚いたのか、逃げるように四つ這いをしたことがあり、偶然の経験が行動に繋がった（体験談）。

A:【先輩保護者より】家庭でギターを弾きながら歌を聞かせており、生の音や声の方が、子どもが興味を持って近づいてくるという実感がある。雪遊びのツアーやみかん狩りなど様々な体験をしてきたが、旅行先には「視覚に障害のある子どもがいます」と伝えることで、受け入れ先が配慮してくださった。伝えて良かった（体験談）。

A:【あゆみ先生より】就学・入学の流れについても伝えておきます。
本校幼稚部入学：9月頃に「志願前相談」が必要です。忘れそうな場合は遠慮なく学校へお電話ください。
就学支援（小学校入学前）：5～6月頃に市町村から連絡があり、書類手続きや進学先の相談を行います。

地域の学校を希望する場合も、教科書や学習環境の整備などが必要になります。ぜひ盲学校に気軽に相談してください。

~~~~~  
本校の先輩保護者が体験談を話してくださったことで、保護者同士で子育てへの思いを共有できる時間になりました。勇気を出して質問してくださったお母さん、応えてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございました。

ピア・サポートでは、今後も保護者同士が繋がったり、視覚障害について理解を深めたりできるような活動を考えていきます。自信と希望を持って、お子さんへの前向きな支援指導ができるきっかけのひとつとなればと思っています。次年度もぜひご参加ください。お待ちしております。